

科学・技術に関する項目は、現行の『高校 学習指導要領』の「世界史 A」「世界史 B」「日本史 A」「日本史 B」で明示的に挙げられているのは参考資料1や参考資料2の通りである。これに対して、新しい学習指導要領(案)の「世界史探求」では参考資料3および参考資料6に示されているように「科学・技術」関連項目が独立の項目として取り上げられているだけでなく、参考資料4に示されているように科学・技術が明示的に取り上げられている箇所が増加している。

参考資料1 現行の『高校 学習指導要領』の「世界史 A」「世界史 B」における「科学・技術」関連の記載

1-1 科目「世界史 A」の「世界史へのいざない」の「イ 日本列島の中の世界の歴史」における記載

「日本列島の中に見られる世界との関係や交流について、人、もの、技術、文化、宗教、生活などから適切な事例を取り上げ、年表や地図などに表す活動を通して、日本の歴史が世界の歴史とつながっていることに気付かせる。」(現行の高校学習指導要領、p.18)

1-2 科目「世界史 A」の「(3) 地球社会と日本」の「ア 急変する人類社会」における記載

「科学技術の発達、企業や国家の巨大化、公教育の普及と国民統合、国際的な移民の増加、マスメディアの発達、社会の大衆化と政治や文化の変容などを理解させ、19世紀後期から20世紀前半までの社会の変化について、人類史的視野から考察させる。」(現行の高校学習指導要領、p.19)

1-3 科目「世界史 B」の「(1) 世界史への扉」の「ア 自然環境と人類のかかわり」における記載

「自然環境と人類のかかわりについて、生業や暮らし、交通手段、資源、災害などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、世界史学習における地理的視点の重要性に気付かせる。」(現行の高校学習指導要領、p.20)

1-4 科目「世界史 B」の「(1) 世界史への扉」の「イ 日本の歴史と世界の歴史のつながり」における記載

「日本と世界の諸地域の接触・交流について、人、もの、技術、文化、宗教、生活などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、日本の歴史と世界の歴史のつながりに気付かせる。」(現行の高校学習指導要領、p.20)

1-5 科目「世界史 B」の「(5) 地球世界の到来」の単元における記載

「科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、世界は地球規模で一体化し、二度の世界大戦や冷戦を経て相互依存を一層強めたことを理解させる。また、今日の人類が直面する課題を歴史的観点から考察させ、21世紀の世界について展望させる。」「科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展、帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、国際的な移民の増加などを理解させ、19世紀後期から20世紀初期までの世界の動向と社会の特質について考察させる。」(現行の高校学習指導要領、p.21)と記載されている。

[出典1] 現行の『高校 学習指導要領』

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2011/03/30/1304427_002.pdf

[出典2] 文部科学省『高等学校学習指導要領解説』の地理歴史編(平成21年12月、平成26年1月一部改訂)がダウンロードできるWEBページ

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1282000.htm

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2014/10/01/1282000_3.pdf

参考資料2 現行の『高校 学習指導要領』の「日本史 A」「日本史 B」における「科学技術」の記載

2-1 科目「日本史 A」の「(3) 現代の日本と世界」の「イ 経済の発展と国民生活の変化」の項目における記載

「戦後の経済復興，高度経済成長と科学技術の発達，経済の国際化，生活意識や価値観の変化などに着目して，日本経済の発展と国民生活の変化について考察させる。」(p.23)

2-2 科目「日本史 B」の「(3) 近世の日本と世界」の「ウ 産業経済の発展と幕藩体制の変容」における記載

「幕藩体制下の農業など諸産業や交通・技術の発展，町人文化の形成，欧米諸国のアジアへの進出，学問・思想の動きに着目して，近世の都市や農山漁村における生活や文化の特色とその成立の背景，幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成について考察させる。」(p.25)

2-3 科目「日本史 B」の「(6) 現代の日本と世界」の「イ 経済の発展と国民生活の変化」における記載

「戦後の経済復興，高度経済成長と科学技術の発達，経済の国際化，生活意識や価値観の変化などに着目して，日本経済の発展と国民生活の変化について考察させる。」(p.25)

参考資料3 高校の新学習指導要領(案)における科目「世界史探究」の内容「E 地球世界の課題」の中の「(3) 科学技術の高度化と知識基盤社会」

高校の新学習指導要領(案)における科目「世界史探究」の内容で特に注目すべきは、「E 地球世界の課題」の中の「(3) 科学技術の高度化と知識基盤社会」である。ここでは、下記のように「知識基盤社会の展開と課題を理解すること」との関連で「科学技術」の歴史的展開が中心的主題とされている。

E 地球世界の課題

(3) 科学技術の高度化と知識基盤社会

諸資料を活用し，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 原子力の利用や宇宙探査などの科学技術，医療技術・バイオテクノロジーと生命倫理，人工知能と労働の在り方の変容，情報通信技術の発達と知識の普及などを基に，知識基盤社会の展開と課題を理解すること。

イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ア) 科学技術の高度化と知識基盤社会に関わる諸事象の歴史的背景や原因，結果や影響，事象相互の関連などに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，現代の科学技術や文化の歴史的な特色，第二次世界大戦後の科学技術の高度化と政治・経済・社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し，表現すること。

なお pp.89-90 では、内容「E 地球世界の課題」の中の「(3) 科学技術の高度化と知識基盤社会」の取り扱いについて「欧米などの動向のみを取り上げることのないよう留意し，持続可能な社会の実現に向け，科学技術における知識の在り方について，人文科学や社会科学等の知識との学際的な連携が求められていることに気付くようにすること。」(pp.89-90)とされている。

[出典]文部科学省(2018)「高等学校学習指導要領案」

<http://search.e-gov.go.jp/servlet/PcmFileDownload?seqNo=0000170358>

<http://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=185000958&Mode=3>

参考資料4 高校の新学習指導要領(案)における科目「世界史探究」における、科学・技術に関するその他の項目

科学・技術の歴史的展開を下記のような形で取り上げることとされている。

4-1 内容「C 諸地域の交流・再編」の中の「(1) 諸地域の交流・再編への問い」における科学・技術

「交易の拡大, 都市の発達, 国家体制の変化, 宗教や科学・技術及び文化・思想の伝播などに関する資料を活用し, 課題を追究したり解決したりする活動を通して, 次の事項を身に付けることができるよう指導する。」p.81

4-2 内容「C 諸地域の交流・再編」の中の「(3) アジア諸地域とヨーロッパの再編」における科学革命の項目

「宗教改革とヨーロッパ諸国の抗争, 大西洋三角貿易の展開, 科学革命と啓蒙思想などを基に, 主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解すること。」p.82

4-3 内容「D 諸地域の結合・変容」の中の「(1) 諸地域の結合・変容への問い」における科学・技術

「人々の国際的な移動, 自由貿易の広がり, マスメディアの発達, 国際規範の変容, 科学・技術の発達, 文化・思想の展開などに関する資料を活用し, 課題を追究したり解決したりする活動を通して, 次の事項を身に付けることができるよう指導する。」p.83

4-4 内容「E 地球世界の課題」の中の「(4) 地球世界の課題の探究」における「科学技術」

次の①から③までについて, 内容のA, B, C及びD並びにEの(1), (2)及び(3)の学習を基に, 持続可能な社会の実現を視野に入れ, 主題を設定し, 諸資料を活用し探究する活動を通して, 以下のア及びイの事項を身に付けることができるよう指導する。

- ① 紛争解決や共生
- ② 経済格差の是正や経済発展
- ③ 科学技術の発展や文化の変容

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 歴史的経緯を踏まえて, 地球世界の課題を理解すること。

イ 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。

(イ) 地球世界の課題の形成に関わる諸事象の歴史的背景や原因, 結果や影響, 事象相互の関連, 諸地域相互のつながりなどに着目し, 諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き, 地球世界の課題の形成に関わる世界の歴史について多面的・多角的に考察, 構想し, 表現すること。

pp.86-87

なお p.90 で, この(4)は「世界史探究」という科目のまとめとして位置付けられている。また「科学技術の発展や文化の変容」が、「紛争解決や共生」や「経済格差の是正や経済発展」と「相互につながりをもっていることに気付くようにすること」とされている。

参考資料5 高校の新学習指導要領(案)における科目「日本史探究」における、技術に関する項目

「(3) 近世の国家・社会の展開と画期(歴史の解釈, 説明, 論述)」に関して、次のような知識を身に付けることとされている。(p.72)

- (ア) 法や制度による支配秩序の形成と身分制, 貿易の統制と対外関係, **技術の向上と開発の進展**, 学問・文化の発展などを基に, 幕藩体制の確立, 近世の社会と文化の特色を理解すること。
- (イ) **産業の発達**, 飢饉や一揆の発生, 幕府政治の動揺と諸藩の動向, **学問・思想の展開**, 庶民の生活と文化などを基に, 幕藩体制の変容, 近世の庶民の生活と文化の特色, **近代化の基盤の形成**を理解すること。

参考資料6 「世界史 B」と「世界史探究」の内容構成の比較

現行の学習指導要領における 「世界史 B」の内容構成	新しい学習指導要領(案)における 「世界史探究」の内容構成
<p>(1) 世界史への扉</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 自然環境と人類のかかわり イ 日本の歴史と世界の歴史のつながり ウ 日常生活にみる世界の歴史 	<p>A 世界史へのまなざし</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 地球環境から見る人類の歴史 (2) 日常生活から見る世界の歴史
<p>(2) 諸地域世界の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 西アジア世界・地中海世界 イ 南アジア世界・東南アジア世界 ウ 東アジア世界・内陸アジア世界 エ 時間軸からみる諸地域世界 	<p>B 諸地域の歴史的特質の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 諸地域の歴史的特質への問い (2) 古代文明の歴史的特質 (3) 諸地域の歴史的特質
<p>(3) 諸地域世界の交流と再編</p> <ul style="list-style-type: none"> ア イスラーム世界の形成と拡大 イ ヨーロッパ世界の形成と展開 ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界 エ 空間軸からみる諸地域世界 	<p>C 諸地域の交流・再編</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 諸地域の交流・再編への問い (2) 結び付くユーラシアと諸地域 (3) アジア諸地域とヨーロッパの再編
<p>(4) 諸地域世界の結合と変容</p> <ul style="list-style-type: none"> ア アジア諸地域の繁栄と日本 イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界 ウ 産業社会と国民国家の形成 エ 世界市場の形成と日本 オ 資料からよみとく歴史の世界 	<p>D 諸地域の結合・変容</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 諸地域の結合・変容への問い (2) 世界市場の形成と諸地域の結合 (3) 帝国主義とナショナリズムの高揚 (4) 第二次世界大戦と諸地域の変容
<p>(5) 地球世界の到来</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 帝国主義と社会の変容 イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現 ウ 米ソ冷戦と第三世界 エ グローバル化した世界と日本 オ 資料を活用して探究する地球世界の課題 	<p>E 地球世界の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 国際機構の形成と平和への模索 (2) 経済のグローバル化と格差の是正 (3) 科学技術の高度化と知識基盤社会 (4) 地球世界の課題の探究